

13

児童館部会の取組み

地震津波災害に際し、児童館部会では、県内外の子どもに関わる様々な団体・個人と連携し、支援活動を行いました。中でも、「いわて子どもあそび隊」という被災地の子どもたちに“あそび”を提供する活動では、平成21年(2009)に岩手県で児童館・児童クラブの全国大会を開催した際に築いたネットワークが有機的に働き、一つひとつの支援を実現することができました。

活動の概要と、岩手の子どもたちに全国から届いた支援は次のとおりです。

① 震災による被害について

あり	28 施設
なし	65 施設
無回答	18 施設
計	111 施設

② 建物被害について

全 壊	3 施設	鵜住居児童館、唐丹児童館、箱崎児童館(※箱崎児童館は6/6付で閉館)
半 壊	0 施設	
一部損壊	22 施設	盛岡市:13、宮古市:1、奥州市:3、一関市:4、矢巾町:1
な し	3 施設	

③ 職員について

区分	人数	5/1 在職者
死 亡	0 名	
行方不明	0 名	
負 傷	0 名	0 名
同居の配偶者・親・子を亡くした職員	0 名	0 名

④ 職員の住居について

	世帯主		世帯主以外		計	
	人数	5/1 在職者	人数	5/1 在職者	人数	5/1 在職者
全 壊	2 名	1 名	7 名	6 名	9 名	7 名
半 壊	0 名	0 名	3 名	3 名	3 名	3 名
					12 名	10 名

⑤ 車両について

職員の自家用車損失数		9 台
内 訳	軽自動車	7 台
	普通車	2 台
	その他	0 台

(1) 被災の状況

会員施設111館(当時)のうち、3館が全壊・流失し、内陸部も含めて22施設が一部損壊しました。施設職員に人的被害はありませんでしたが、住居や車両の損失がありました。利用児童の死亡3名は、いずれも施設外(自宅、帰宅途中等)での被災でした。発災当日は、児童館部会の総会及び研修会が盛岡市のふれあいランド岩手で開催されており、多くの児童館長が参加していました。激しい余震が続く中、参加者は不安な表情で帰路につきました。

(2) 義援金の募集～配分

4月末～5月まで、沿岸部を除く会員施設に呼びかけ、義援金を募集しました。集まった179,700円は、6

⑥ 利用者(幼児・児童ご本人)について

死 亡	3 名
行方不明	0 名
計	3 名

月に行った会員施設・職員の被災調査を元に分配し、7月末に見舞金として送金しました。

● 義援金の配分

義援金総額

179,700円(24児童館・児童センター、団体より)

見舞金総額 205,000円 * 差額は児童館部会より支出

	区分	見舞金額	対象施設・者	総額
施設	全壊・流出	30,000円	2か所	60,000円
職員	全壊(世帯主)	30,000円	1名	30,000円
住居	全壊(世帯主以外)	15,000円	5名	75,000円
	半壊(世帯主)	15,000円	0名	0円
	半壊(世帯主以外)	10,000円	4名	40,000円

(3) 「あそべるもの募集!」

発災後、岩手県社会福祉協議会(以下、県社協)には、全国からおもちゃの寄付の申し出が多く寄せられました。しかし、県社協が事務局を置いている「ふれあいランド岩手」が避難所となっており、受け入れが出来ない状態でした。

そこで、岩手県立児童館いわて子どもの森(以下、子どもの森)がおもちゃの寄付窓口となること、寄付物品に



[「あそべるもの」の一部]



[大量に集まった「あそべるもの」]

については盛岡大学の協力を得て大学の倉庫に保管することなどの体制を整えた上で、3月末にいわて子どもの森のホームページと児童館部会のブログに「あそべるもの募集!」という記事を掲載しました。その結果、5月10日までの募集期間に、全国から多くの「あそべるもの」が寄せられました。

(4) 児童館部会ブログの活用

児童館部会が全国大会開催以来開設している携帯電話版ホームページ(ブログ)は、発災当初、通信が混乱した中での連絡や安否情報を伝えることに活用しました。また、前記した「あそべるもの募集!」のようなお知らせや、被災地の状況報告など、全国に情報を発信する貴重なツールとなりました。

地震に関して

- 2011.03.13 Sunday 09:54
- comments(0) trackbacks(0)
- by iwatejido

岩手事務局にかわって、東京の育成財団事務局阿南からです。

全国各地の児童館関係者から岩手の皆さんへのお見舞い、心配のお声をいただきしております。

岩手事務局星さん、いわて子どもの森スタッフと連絡がとれました。それぞれご無事です。

その他県内児童館・児童クラブの状況は調査中です。

[3月のブログ①]

(5) 子どもの遊びを支援する~「いわて子どもあそび隊」結成

3月下旬、県社協では被災地の状況調査に繰り返し出かけていました。その間、いわて子どもの森職員(プレーリーダー)1名が県社協に派遣され、事務局の支援にあたりました。

その際、ふれあいランドに避難していた子どもたちと遊んだ様子がブログに報告されています。

避難所にいる子どもたち…

- 2011.03.21 Monday 16:06
- comments(3) trackbacks(0) by iwatejido

いわて子どもの森、ゆっきいです。

今日の午後、ちょっとの時間でしたが、ふれあいランドに避難している子どもたち数名と遊びました。

名札には、「陸前高田市」「大槌町」と書かれてありました。

近くにお住まいの厚生員さんが、ちょうどいいタイミングでランドに来てくれたので、一緒に遊んでもらいました。

まずは、ぐりとぐらカルダ!

読み手は、子どもたちがかわいばんに。

大人げなく本気を出しましたが、負けました(笑)

その後は、トランプしたり、折り紙したり…

折り紙と言っても、折って遊んでいたのは数分で終了!

4、5歳の男の子たちから、「切ってつなげて“輪っか”を作ろう!」という提案が。

輪を作つて、バーティーみたいにホールの入り口を飾つけて、みんなをピックリさせたいって…

いっしょくけいめい作つて、飾りつけました。(写真添付)



彼らの計画は壮大で、ふれあいランドの廊下を一周するとのことです。
私も、できるかぎり一緒にガンバリマス!

何気ない会話のなかに、「全部流されちゃったんだよ」とか「お姉さんはおうちあるの?」という言葉が出てきます。

子どもたちの前は涙は流せませんが、胸がしめつけられました。

だけど、子どもからたくさんさんの“頑張るチカラ”をもらいました。

遊びたくて、たくさん話を聞いてほしくて、だけど今は我慢する時だとわかっているようです。
だからきっと、私たちのようなオトナが必要。

[ゆっきいブログ]



〔陸前高田市米崎保育園(2011.4.27)〕



〔釜石市栗林児童館(2011.4.27)〕



〔「紙コップブーメラン」材料づくり(2011.10.17)〕



〔「まつぼっくりのクリスマスツリー」材料づくり(2011.11.14)〕

同じころ、いわて子どもの森でも、職員が被災地の避難所等を視察しています。自衛隊や報道関係の車両でグラウンドが埋まり遊び場がない様子や、託児の必要性、おもちゃの配布方法などの課題を持ち帰りました。

そのような状況の中で、4月5日、児童館部会、いわて子どもの森、岩手県立大学、盛岡大学短期大学部で協議し、遊びを通して被災地の子どもたちを励ます「いわて子ども遊び隊」を設置しました。活動メンバーは、全国大会で築いたネットワークを中心に、県内の子どもに関わる大人たちにボランティアでの参加を呼びかけました。

4月8日から開始した遊び隊活動は、避難所のほか、6月までは宮古市と釜石市の児童館を定期的に訪問しました。8月からは他の被災市町村にも出向き、児童館に限らず放課後学童クラブや子育て支援施設などにも活動先を広げ、全国から集まったおもちゃの配布や、工作のキットを持参して遊びのプログラムの提供を行いました。

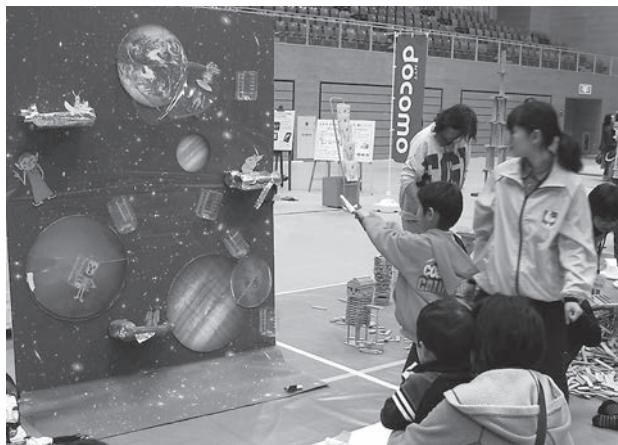
平成23年度の訪問活動は全51回、延べ169名のボランティアが活動しました。平成24年度は18回、延べ63名が参加しています。

なお、活動にあたっては、財団法人児童健全育成推進財団(以下、育成財団)から物品の提供、支援金、活動車両の共有などのバックアップを頂きました。また、設置当初のメンバーの他、盛岡市社会福祉事業団、矢巾町社会福祉協議会、元児童厚生員の方が所属する岩手県学童クラブ連絡協議会、盛岡市レクリエーション協会による推進委員会を組織し、活動の方針を協議して参りました。平成24年度には、育成財団、児童館部会の宮古・釜石両ブロックにも推進委員会に参加して頂き、現地の状況などをうかがいました。

また、被災地には行けないけれど何か手伝いたいというボランティアの声から、訪問時に使用する工作キットを作る「おうえん隊」活動も6月から始まりました。身近にある材料で、子どもたちと一緒におもちゃを作って遊ぶためには、様々な下準備が必要です。地道ですが、なくてはならないこの活動にも、盛岡市近郊の学童クラブ指導員、元児童厚生員などが、平成23年度には延べ170名、平成24年度には延べ57名がボランティアとして協力しました。

(6) 県立児童館「いわて子どもの森」との連携

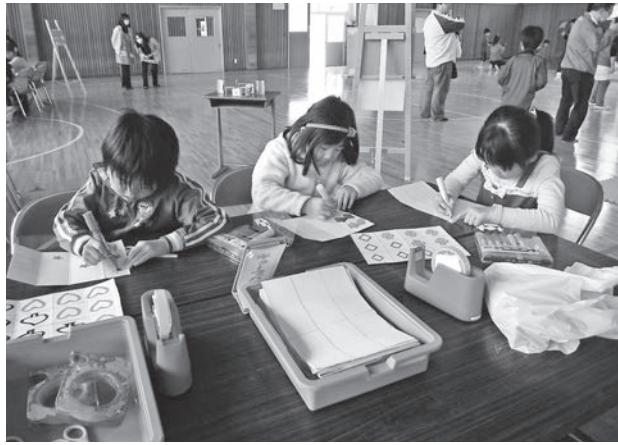
平成23年11月～12月、岩手県では被災地の子どもたちを支援するために、大船渡市、宮古市、久慈市の3カ所で「三陸子どもフェスタ」を開催しました。



〔あそびにコンビニ宮古(2011.11.27)〕



〔あそびにコンビニ大船渡(2011.11.1)〕



〔あそびにコンビニ陸前高田市(2012.11.10)〕



〔あそびにコンビニ大船渡市(2012.12.9)〕

親子で楽しめるコンサートや絵本の読み聞かせなどが行われたこのイベントに、いわて子どもの森は様々なあそびを体験できる「あそびにコンビニ」のコーナーを設けました。その中に、いわて子どもあそび隊も工作で参加しました。

平成24年度は、いわて子どもの森主催で「あそびにコンビニ」を沿岸部4ヵ所と盛岡市で計5回開催し、いわて子どもあそび隊も毎回参加しました。

(7) 全国から届いた支援

① 義援金

① 児童館活動支援募金…117万円

育成財団が、全国の児童館関係者に呼びかけて実施したものです。平成23年4月に初動金として20万円、平成24年2月には97万円の寄付を頂きました。

② 滋賀県大津市立伊香立児童館および同児童館母親クラブ…1万円

平成23年12月22日に、バザー売上金の中から寄付して頂きました。

③ 大和哲也氏…66万5千円

平成24年2月28日、キックボクサーの大和哲也氏が作成したオリジナルTシャツの売上金全額を、被災地の子どもたちのために、と寄付して頂きました。

これらの義援金は、いわて子どもあそび隊の活動資金として、工作キットの材料費や車両の燃料費、事務局の経費などに活用させて頂いています。

② 支援物資など

① 「あそべるもの募集!」

平成23年3月27日から5月10日にかけて、おもちゃ(コマ、積み木など)3,517点、カードゲーム・ボードゲーム1,194点、文房具(クレヨン、画用紙他)9,400点、書籍(絵本、児童書他)2,586点を、110の個人・団体から頂きました。

これらは、いわて子どもあそび隊の活動時に持参し、被災地の児童館・避難所等に配布したほか、被災地の児童館等にリストを配布し、希望施設へ提供しました。各地からの支援で施設等の物資が飽和状態になってからは、関係各所でのバザーに出品し、売上金をいわて子どもあそび隊活動資金として活用しました。

【別表3】支援物資バザー売上一覧

日付	場所等	売上金額
平成23年7月31日	アネックスー里塚祭り	11,890円
8月6日	三ヶ割公民館まつり	5,720円
9月4日	ふれあいランド祭	58,950円
9月	矢巾社協ふれあいまつり	51,000円
9月	滝沢村福祉ボランティアまつり	20,160円
10月17日	緑ヶ丘児童センター	47,220円
10月15日	北松園児童センター	13,900円
12月	箱清水町内会など	67,947円
計		276,787円

② マフラーの寄付

平成23年12月、大阪府立大型児童館ビッグバンより手編みのマフラー781本を頂き、平成24年2月までに沿岸26施設に配布しました。

③ あそびのキットの寄付

平成23年度中に、茨城県、滋賀県の児童館および東京都の学童クラブより、あそびのキットを頂き、いわて子どもあそび隊の活動に利用しました。

④ 楽つみ木の寄付

平成24年12月、千葉県松戸市の学校法人藤樺学園矢切幼稚園より、バザーの収益金で購入した積み木を1ケース頂きました。いわて子どもあそび隊の活動時



[マフラー]



[あそびのキット]

に持参し、沿岸部の子ども達に遊んで貰っています。

⑤ その他

① 活動車両の共有

平成23年6月から平成24年3月まで、育成財団でリース契約した車両(日産パネット)を、財団が使用しない日は児童館部会で借用させて頂きました。

② 仮設児童館の建設

津波により流出した釜石市の2児童館について、育成財団の協力と民間企業のご支援で、仮施設を建設して頂きました。

●唐丹(とうに)児童館

Tポイント運営企業の協働プロジェクト「Tカード提示で被災地に児童館を～あなたのTカード提示が子どもたちの笑顔につながる児童館になります～」により、コンテナハウスの仮設児童館を平成24年2月、唐丹中学校の敷地内に建設して頂きました。「釜石市 みんなの唐丹児童館」と名付けられたこの施設は、現在は学童クラブとして活用中です。

●鵜住居(うのすまい)児童館

マニュライフ生命保険株式会社およびその親会社で



[楽つみ木]



[ぱんぶきん号]



[日産パネット]

あるマニュライフ・ファイナンシャル・グループの支援により、平成24年3月、コンテナハウスの仮設児童館を建設して頂きました。備品等については、育成財団が全国に寄贈を呼びかけ、提供されました。

③ あそびの提供・交流など

平成23年6月、育成財団と北海道土幌町中土幌児童ステーションの共催で、同ステーションが保有する「子育て支援カー『ぱんぱきん号』」が青森県・岩手県の沿岸地域を巡回し、児童館や放課後児童クラブ、保育所

等で子ども達への遊び支援を行いました。その際、盛岡市にも立ち寄って頂き、第1回「おうえん隊」に参加。情報交換などを行いました。

平成23年12月には、財団法人札幌市青少年女性活動協会(当時)が宮古市、山田町、釜石市で工作等あそびのプログラムを提供する活動を実施。やはり盛岡市に立ち寄って頂き、12月12日に「おうえん隊」と情報交換を行いました。また、持参してきた工作キットを提供して頂きました。

札幌のみなさん、ありがとうございました！

- 2011.12.14 Wednesday 23:12
- [comments\(1\)](#) [trackbacks\(0\)](#) by [iwatejido](#)

みなさん、こんにちは。

この土日の研修会にお手伝いで参加し、翌日から筋肉痛のやっちはず^音普段身体を動かしていないことがばればれ……、情けないです。

12日(月)、先週から岩手入りしていました札幌のみなさんもおうえん隊の活動にご一緒してくださいました^音

この日の参加はおうえん隊のメンバー10名+札幌の児童会館の先生3名!!

今日の作業は、前回滝沢の学童の先生が紹介してくださいました「ペットボトルで作るビーズアクセサリー」を作ってみよう!ということで、みんなで挑戦しました^音

ペットボトルの種類や切る方向によって、うまく丸まったり丸まらなかったり……。

実際に作ったことのあるメンバーもいましたので、それぞれアドバイスし合いながら作業を進めました。

そんなことをしながら、今日はお互いの情報交換も行ないました。

まずは自己紹介を。

おうえん隊のメンバーもどんな想いでこの活動に参加しているのか。

普段なかなかしない話ですので、お互いの想いを聞けるいい機会となりました。



そして、札幌のみなさんが実際に岩手県の沿岸を回られての様子や感想もお聞きしました。

メンバーのお一人、小林さんは6月にも一度岩手にいらした方で、

それから6ヶ月経った沿岸部は復興が進んだな~と感じた半面、

やはりまだまだというところもたくさんありました、とのこと。

子どもたちが元気に過ごせるようにと、先生方がとってもよく頑張っていらっしゃることがひしひしと伝わってきたそうです。

自分たちが支援に入ることで、普段目をかけてあげられない子どもたちのこともしっかり見る時間が持ててよかったです、と言ってくださいました児童館の先生もいらしたようで、

今回活動に当たってくださいました札幌のみなさんには本当に感謝いたします^音

実際に支援に入って感じた課題などもお聞きしましたので、

あそび隊としても今後どういう形で支援していくのがよいのか、

お互いに情報交換しながら、進めていければと思います。

それから、今回おうえん隊に参加したメンバーはとってもラッキー^音

なんと札幌から持参した遊びネタをご披露してもらいました。

不思議なカプセル、あやとり、シュシュ、紙コップで作るおもちゃなどなど。

次々に登場する遊びネタに歓声があがり、おうえん隊のメンバーももう夢中です^音

札幌のみなさん、本当にありがとうございました^音

最後にお見送り!

盛岡~八戸へ、そしてフェリーに乗って北海道へ^音

無事にお帰りください。(※翌日13日、札幌に到着されたそうです)

パワフルなみなさんにお会いできて、うれしかったです^音

たくさんの収穫ありの一日でした^音

『おうえん隊』第1回目活動終了！

- 2011.06.07 Tuesday 14:52
- [comments\(0\)](#) [trackbacks\(0\)](#) by [iuatejido](#)

みなさん、こんにちは。やっちはです！

今日も1日暑いですね☀

昨日、『おうえん隊』の活動第1回目を行い、初回からたくさんの方々に参加していただきました↑↑

なんと18名も！（ゲストの北海道・中士幌児童ステーションのみなさん5名を含め）

被災地に行きたいけど実際に行けない、でもなにかしたい……、そんな思いをお持ちの方がたくさんいるんですね&あ

初回でしたので、簡単に自己紹介をしつつ、実際に『あそび隊』として現地にいったメンバーからは、子どもたちの様子などを報告してもらいました。

ゲストの中士幌児童ステーションのみなさんからもどんな活動をされているのか教えていただき、実際に現地に行ってみてどうだったか、今後の支援ではどうしたらいいか、お互いに情報を交換し合いました。今後の活動に活かしていければと思います。

その後、作業開始！



今日は牛乳パックでできるおもちゃのキット作りチームと、新しいおもちゃ作りに挑戦するチームに分かれて作業を進めました。牛乳パック1本から6種類のおもちゃが作れるとあって、みんな真剣な様子。空飛ぶ円盤（ブーメラン）もその1つです。出来上がって早速飛ばしてみるメンバーもいました。

最後に中士幌児童ステーションの子育て支援カー『パンプキン号』を見せてもらいました。

この『パンプキン号』は2000年に有珠山噴火の際に支援しようということで誕生したんだそうです。今年で11年目。本州へは初めて来たそうです。ありがとうございます😊

荷物があることで中に入ることはできませんでしたが、ここで遊ぶ子どもたちはきっと目をキラキラ輝かせて過ごすんだろうな……、と想像するだけでうれしくなりました。

『パンプキン号』のみなさん、ありがとうございました。

これから宮古～釜石～大船渡～陸前高田と支援に回られるとのこと。

気をつけて行ってください。よろしくお願いします！

岩手県社会福祉協議会 児童館部会
元副部会長 南雲 祥子

2011.3.11から1ヶ月位過ぎた頃、県社協児童館部会で、沿岸に支援に入ることになり、いわて子どもあそび隊が発足しました。その時、私にも声をかけて頂きましたが、私に何が出来るのかわかりませんでした。

でも、一人では出来なくても、みんなで協力したなら何か出来るお手伝いがあるのかもと思い、あそび隊の仲間に入れて頂き、沿岸に伺いました。沿岸にお邪魔するたび私が思うのは、支援を押し付けがましくしてはいけない。支援とは、相手からの要望に合ったお手伝いをすることなのではと思いました。そして、みんなが少しずつでも、心から笑顔になり復幸のお手伝いがこれからも出来たらと思います。一人では出来なくても、仲間と一緒に、決して押し付けにならないように。

